

第 2 回 田辺市都市計画マスタープラン策定委員会 会 議 録

日時:平成 21 年 2 月 4 日(水)

14 時 00 分から 16 時 30 分まで

場所:田辺市役所 本庁 4 階 第 1 委員会室

1. 開会

(1) 田辺市建設部より挨拶

田辺市建設部	<ul style="list-style-type: none"> ・本日は、第 2 回 田辺市都市計画マスタープラン策定委員会に、ご参集下さいまして、誠にありがとうございます。 ・今回は、前回から引き続き「都市計画区域の検討」や、市民の皆様や高校生の皆様を対象に実施しました「アンケート調査結果」などから浮かび上がってくる「まちづくりの課題」等について、ご議論していただくことを考えております。 ・皆様の活発な議論をいただくことをお願いし、簡単ではございますが、ご挨拶とさせていただきます。
--------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

(2) 委員長あいさつ

委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・みなさんご存知のとおり、日本はサブプライム問題により大変な状況に陥っており、これは地域経済にも影を落としています。このような、経済状況を踏まえるとともに、住民アンケート調査などにも考慮する必要があるため、マクロとミクロの視点での活発な議論を頂ければと思います。
-----	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

2. 議事

(1) 策定委員会(第 1 回)の内容について

(資料) 第 1 回 田辺市都市計画マスタープラン策定委員会 会議録

《質疑応答》

- 特になし -

(2) 策定委員会(第 2 回)資料について

田辺市都市計画マスタープラン策定委員会(第 2 回)資料

都市計画区域の検討

《質疑応答》

委員	<ul style="list-style-type: none"> ・芳養稲成の北部の住民の方から、都市計画税を払っているが、都市計画道路などはない。都市計画区域を外してほしいとお話を伺っている。その地区について、都市計画区域の除外を推進する方針が記載されており、ありがたいことだと思う。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・天神崎の付近については、都市計画区域になっている。これは、将来、開発する可能性があるという意味なのか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・現在、その辺りには、第 1 種低層住居専用地域、自然公園の特別地域が指定されるなど、大きな開発ができないような厳しい規制になっている。都市計画としては、保全という視点で都市計画区域を指定している。

(3) 策定委員会(第 2 回)資料について

田辺市都市計画マスタープラン策定委員会(第 2 回)資料

田辺市の概況

《質疑応答》

- 特になし -

(4) 策定委員会(第2回)資料について

田辺市都市計画マスタープラン策定委員会(第2回)資料

アンケート結果

田辺市都市計画マスタープラン策定のための市民アンケート(単純集計結果)

田辺市都市計画マスタープラン策定のための高校生アンケート

《質疑応答》

委員	<p>・高校生アンケートの定住意向では、「一旦は市を出るが、帰ってきたい。」という意見が多い。私は一旦、田辺市を出て、今は田辺で事業をはじめてはいるが、「帰ってきたい、でも働く場所がない」ので、帰れない方も多いと思う。都市計画でなんとかできればいいと思う。</p> <p>・また、いつ頃帰るかに違いがあると思う。働く世代中に帰るか、引退してから、帰るかである。高校生が、その辺りをどう考えているかも重要である。</p>
委員	<p>・高校生が一旦まちを出るのは、学校(大学、専門学校)がないことも影響している。その後、就職時期に市内か市外かを考える分岐点がある。</p> <p>・都市計画では、住む場所、働く場所を如何に提供していくかを検討すべきで、郊外の市街化は、旧市街地で家を建てるのが困難なことが影響している。金銭的な面も含め旧市街地での住む条件が整えば、郊外の市街化は少なくなると思う。</p> <p>・旧市街地での借家(借地)や転売を支援する方策など、若者が住みやすくすることを都市計画として考えることが必要である。</p> <p>・一方、市民アンケートでは、回答者に高齢者が多いことにもよと思うが、保健・医療・福祉の充実したまちを望む意見が多い。単身や夫婦のみで住む高齢者も多く、安心して生活できるよう都市計画として何をすべきか(例えば、交通の利便性の向上)などを検討すべきである。</p>
委員	<p>・人口が増加する時代は終わり減少する時代であり、新しい宅地を造ることは不要な時代になってきた。旧市街地には空き地が増加しつつあり、市や開発公社などでは買収することはできないと思うが、何とか若者が住めるように行政の支援策を検討すべきだと思う。</p>
委員	<p>・都市の地価が高いところでは、土地を貸す(定期借地)ことを行っている。旧市街地の土地を行政が買って、住民に貸すことができれば、土地取得費も抑えられるし、中心市街地での時代を超えた定住人口の確保も可能と考えられると思う。</p>
委員長	<p>・借地の話が出たが、イギリスでは、まち全体が借地というまち「ブリクストン」がある。イギリスや日本の事例を見ると、一概には言えない部分もあるが、「借地のまち街並みはきれい」だと言える。</p> <p>・土地は個人のものであり、土地利用や都市計画は公的な立場が強い。その辺りのせめぎ合いもあるが、土地の権利を考えた上で都市計画を考えることも重要だと思う。</p>
委員	<p>・高齢の方ほど、中心市街地に住みたい意向があることを見聞きしている。田舎(郊外)の高齢者の方に、中心市街地に来てもらい、若者は郊外の土地の安いところに、ゆったりと住んでもらうという考え方もあると思う。若者又は高齢者いずれの場合でも、中心市街地での居住は、行政の支援が必要だと思う。こうしたことも、1つのコンパクトシティ化であると思う。</p>
委員長	<p>・コンパクトシティの先進地の一つに青森市がある。郊外に住む高齢者にとって、雪かきが大変で問題となっている、中心市街地への住み替えを行政が補助金をもって支援している。コンパクトシティは国が進めている1つの柱である。</p> <p>・コンパクトシティは雪国などある条件下では受け入れられているが、居住権の話もあり、コンパクトシティ化には賛否両論の意見がある。</p>

委員	<ul style="list-style-type: none"> ・昭和 30 年代に集落再編成という事業があった、それによって現在よく言われている限界集落の形成が加速された背景もあると思う。 ・市外から人を入れることはいいことだが、市内や地域内で居住地を移すことは、集落再編成事業の二の舞になる気がする。
委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・コンパクトシティは、行政経費が安くなることから、着目されている側面もあるが、個人の居住権もあり、賛否両論がある。 ・コンパクトシティを掲げていたまちが、様々な議論の結果、将来的な課題として、一旦、その旗を降ろした事例もある。 ・日本でコンパクトシティが着目される理由は、ヨーロッパの国々が高齢社会を考慮して、コンパクトシティを掲げていることにもよると思う。 ・富山市の場合では、市内に多くのハブ(地域)を設けて、それを交通で結ぶ考え方であり、コンパクトシティとは必ずしも中心市街地に集約することばかりではない。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・中心市街地に 1 極集中させるという考え方ではないのであれば、コンパクトシティの考え方はいいと思う。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・市民アンケートの定住意向で、「今後も住み続けたい」という意見が多いが、回答者の高齢者割合が高いことを踏まえると、実際は、「住みたいのではなく、住まざるを得ない」ではないかと思う。先祖代々の土地を守るという考えもあると思う。 ・若者が市外に行く傾向は今後も続き、ある程度仕方がないと思う。しかし、働く場所、住む場所などを考え、交流人口や定住人口を如何に増やすかを考えることが重要だと思う。

(5) 策定委員会(第2回)資料について

田辺市都市計画マスタープラン策定委員会(第2回)資料

上位計画

まちづくりの課題

《質疑応答》

委員	<ul style="list-style-type: none"> ・コンパクトシティは行政としては、ある意味都合のいいシステムだと思う。しかし、中心市街地に移り住むことは、農業・林業作業が難しくなることもあり、すべての方に受け入れられるものではない。 ・都市計画区域内外で住宅の耐震性に大きな差がある。都市計画区域内では、建築確認申請により行政の審査が入っているため、耐震性は良い。このことから、都市計画区域外でも何らかの審査をかける方法が必要であると思う。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・コンパクトシティは、集落から市街地に人を集めてくることに着目しているのではない。現在、生活の中心地であり、経済的にもまちの核である中心市街地が空洞化し活力低下しているため、活性化するための 1 つの手法である。 ・中心市街地の活性化のために、市も計画づくりを行っており、国からの認定がもらえれば、補助制度などの支援があるため、これをうまく利用し、住みやすいまちを形成させようとしている。 ・単身などで大きな住宅に住む高齢者が多く、多くの方と話しをすると、中心市街地に住み移りたいという意向は強いと感じている。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・コンパクトシティのイメージがわからない。どの範囲なのか。D I D(人口集中地区)のことか。それがないと議論の中に入りにくい。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・中心市街地活性化の計画としては明確な区域があるが、もう少し広いエリア(例えば用途地域)をイメージして、市街地のコンパクト化を考えた方がいいと思う。
委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・コンパクトシティの定義は曖昧であり、既に郊外型の市街地があるまちでは、実際難しい。既存市街地などの既存資源を効率的に使おうという考え方も含んでおり、範囲というより、概念的なことでもいいと思う。

委員	<ul style="list-style-type: none"> ・一番大事なことは、「如何にまちに定住できるか、職業があるようにするか」だと思う。簡単なことではないと思うが、それを議論すべきと思う。 ・特に、若い方に定住してもらう方策を検討すべきと思う。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・多くの方から「企業誘致はなかなかできない」と聞く。休耕農地が多くそれらの農地を活かせないかと思う。例えば、若者に農地を貸して定住して頂くことに対して、支援することを都市計画でできないかと思う。
委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・都市計画ではなく、県外から人を呼び込むといった雇用や労働政策の中で、農業従事者に対して支援する方法もある。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・田辺市でもそうだが、都市計画区域の中には、農業振興地域と重なっている地域もあり、そこでは市街化ではなく、農業の振興に力が注がれる。議論はいいのだが、この都市計画マスタープランに活かすことは少し難しいと思う。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・定住のためには、まちの魅力が重要であり、それは今あるものを如何に活かすかだと思う。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・現在、中心市街地の活性化で文化的遺産を復活するなど、いろいろと議論しているが、個人的には、中心市街地の活性化を進めていく中で、紀南病院が郊外に移転したことが、空洞化に影響を与えていると思う。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・私が住んでいる地域も、昔は、にぎやかだったが、今は活気がない。しかし、最近、水と空気がきれいなまちとインターネットで知り、田辺市に移り住んできた方がいた。産業は減少傾向ではあるが、まだ、田辺には山や海岸などいいところも多くあると思う。そういうことを、日本全国や世界にむけ発信し、若者世代が移り住んでくれたらいいと思う。 ・目に見えるマスタープランづくりをお願いしたい。すぐに、手がけられる具体的なきめの細かい計画が個人的にはわかりやすい。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・現在の田辺には産業がなく、働くところが少ないと感じている。田辺の子供たちの将来・未来が不安である。町内会活動は活発と感じている。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・田辺は、働く場所が少なく、給料も少ないとは聞く。一方で、帰ってきたいという友人も多い。私は大学に行って田辺に戻ってきたが、「よく帰れたなあ」と感心されるぐらいである。生計が立てられないと住宅建築や子育てができない。このままでは人口減少が続くだろう。
委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・田辺市のみならず、多くの地方都市が「人口減少」、「高齢化」、「若者の人口流出（働く場所がない）」といった課題を抱えている。それに如何に挑戦するかであり、この計画がその糸口になればと思う。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・議論を聞いて、改めて都市計画として何をすべきかを県として検討する必要があると思う。 ・自然環境や景観づくり、中心市街地の活性化などを様々なことを試みてはいるが、行政のみではうまくいかないケースが多い。住民と如何に協力して、更には、行政が住民を支援できるかを考えるべきだと思う。 ・県では、都市計画区域のマスタープランの見直しを予定している。都市計画区域外での耐震性など意見を聞くと、規制は善良な住民を守ることであり、準都市計画区域や確認申請区域も1つの方策だと感じている。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・県では、海蔵寺の街路事業を進めている。今後、あのような大事業の実施は難しくなっていくと思われる。 ・田辺は食べ物もおいしいし、いいところだと思う。和歌山市にあるものは、大抵、田辺市にあると思う。田辺のまちの「大きさ」や「まとまり」は、ちょうどいいと感じている。 ・地震の問題など「安全安心まちづくり」は県としても重要な課題があり、いっしょに検討していきたいと思う。

委員	<ul style="list-style-type: none"> ・みなさんの意見を聞いて、安全・安心の視点でサポートができればと思っている。道路交通など個別のことに関しては、参考として意見を述べたいと思う。 ・県下の多くの市町の人口は減っている。人口確保の視点でも、住民の意向などを尊重しながら、如何に安全に安心して、更には楽しく暮らせるまちができるかを検討したいと思う。
委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・住みやすい人口規模だと感じている。田辺の近接性が住み良さを出している。まちをつくっていくのは市民が主体だ。市民が主体となりやすいシステムを行政がつくっていくことが大切と思う。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・今後、都市計画道路と用途地域に関して議論を深めたい。都市計画道路では、財源が少ない中で、効率的で、実現性のある道路整備を考える必要であり、整備すべき道路とそうではない道路を整理する必要があると思う。また、用途地域については、少し用途地域を変更するだけでも、民間の開発などの動きが変わってくる。そうした、土地利用の規制の強化や緩和についても、議論をする必要があると思う。 ・田辺市の場合、大手企業が設備投資などを行い進出する人口規模に達していないことが、働く場所が少ない一因でもある。しかし、企業が進出するには経費（経済状況）に左右される。田辺でできることを考える必要があり、自然環境を活かして、県が推進しているプロジェクト（二地域居住）のように、まず来て次に一時居住して最終的に定住して頂くようなシステムを考えることも1つだと思う。 ・定住や雇用のための整備として道路や宅地造成を行う場合、多くの経費がかかる。経費をかけない都市計画を考える必要があり、仮に規制緩和を検討する際にも、乱開発がおこらないように注意が必要である。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・本日の資料の内容は、概論的な話しが多かったが、今後は具体的な話を行っていきたいと考えている。例えば、都市計画道路や用途地域についても、ある一定の考え方を示し、それに関して議論していただくことを考えている。都市計画道路については、今一度、地域での道路の効率性や経済性などを見極め、道路網を検討すべきとの国の見解もある。
委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・この委員会で、今後、具体的なことも議論していくことになるが、事務局からの提案に対し、皆さんと議論していきたい。

3. 閉会
事務局より挨拶

以上